



お手軽 簡単 自宅 から

# インターネットで英会話体験記

英会話をマスターしたいけど、なかなか適当な勉強法が見つからない。英会話教室に通ってみたいが時間がない、費用も気になるという人も多いだろう。最近よく耳にする「インターネットで英会話」。必要なものは？ 経費はどれぐらいかかるの？ 必要なインターネットの環境やパソコンのスペックは？ ホントに使えるの？ そんな疑問に一気に答えよう。

text : 編集部 illust : 金子ナンペイ photo : Hiroji Kazuo

インターネットを利用して英会話の授業を受ける。これは場所や時間の制約がないのが何よりの魅力だろう。わざわざ英会話教室のある場所まで行かなくても家のパソコンから手軽に参加できる。その日の授業の構文の復習をインターネット上で確認することもできるし、掲示板などで一緒に受けたクラスメートとチャットを楽しむことも可能だ。

インターネット英会話といっても、リアル

タイムで授業を複数人で同時に受けるもの、ストリーミングで英会話をヒアリングするものなどさまざま。よく研究して自分の用途や目的に合ったものを選びたい。

では、実際の授業はどんな準備が必要で、どんな内容なのだろう。語学関連出版社のアルクとプロバイダーのぷらら、ぷららネットワークスが共同で行った無料ブロードバンド英会話実験のモニターに編集部が参加した。その模様を紹介しよう。

## インターネット英会話ってこんなもの

場所の隔たりがない

自宅から好きな時間に参加できる

画像と音声のポイント

クラス教材でその日の復習もできる

掲示板、チャットも活用して情報共有

## 導入編 1

### 必要な道具をそろえる



まずはインターネットにつながるパソコン(今回のモニターはフレッツ・ADSLもしくはBフレッツ環境のぶらユーザー限定)画像と音声をやとりするためにはCCDウェブカメラとマイク付きのヘッドホンが必要だ。テキスト1,800円は別途購入。モニター参加者にCCDカメラとヘッドセットが貸与されたが、編集部ではLogitech QuickCam カメラとマイク付きヘッドホンを使用。

## 導入編 2

### ソフトのインストール



実際に授業に参加するにはソフトのインストールが必要だ。今回はWebEndpointというテレビ会議用ソフトを使用した。サポート担当者から電話で指示を受けながら、指定のサイトからダウンロード。ぶららが用意したサーバー内の教室サイトにアクセスすると、自動で立ち上がる仕組みだ。オンライン英会話でよく使われているマイクロソフトのチャットソフト、Netmeetingの場合はルーターによっては設定が複雑だが、このソフトではその必要はない。

## 導入編 3

### 自分側のマイク音量を調整



自分側のマイク音量を調整するには、コントロールパネルから、「サウンドとオーディオデバイス」をクリックし、オーディオの「音量(V)」を選択。ボリュームコントロールの「プロパティ」を選び、「マイク」にチェックを入れて「録音コントロール」の「マイク」の音量を下から2~3程度に設定する。

### 必要なパソコンのスペック

ADSL 回線速度: 上り150kbpsで  
下り600kbps以上  
CPU: ペンティアムIII 600MHz以上  
OS: ウィンドウズMe/2000/XP  
ブラウザ: インターネット  
エクスペローラ5.5以降  
注: すべて今回の推奨環境

「インターネットで英会話」、興味はあるけれど、何を用意すればいいのだろう。自分のインターネット環境でスムーズに受講できるのだろうか、マイクやカメラの設定は面倒かもしれない。そんな疑問にお答えすべく、編集部で体験してみました。

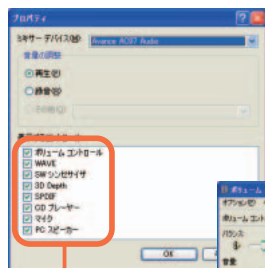
今回受けた無料モニターレッスンは1クラス最大4人の少人数制で、レッスン期間は8月5日より8週間。また、9週目には、アルクがアメリカの非営利団体ACTFLと共同で開発したスピーキングテスト SST (Standard Speaking Test) が無料で受けられる。まずメールで受講を申し込むと、すぐに申し込み受け付けの返事メールが来る。そのメールには受講に際して必要なものが明記されている。今回はぶらら会員でフレッツ・ADSLもしくはBフレッツの利用者を対象にした体験モニターだ。早速ぶららに申し込み、ノートPCもフンバツして新調。NTTのフレッツ・ADSL開設には早くても1週間かかるとのこと。さらにCCDウェブカメラとヘッドセットが必要。専用の教材も受講者に送られる。「理由を説明する」「比較する」など全8回の授業のテーマが決まっており、この教材で事前に予習をしてから受講するのだ。

あとでわかるのだが、設定の際には自分のマイク音量が大きいと相手の音にエコーがかかってしまうので要注意。



## 導入編 4

### 相手側のボリュームを調整



すべてに  
チェック



音量は下から2~3

「コントロールパネル」から「サウンドとオーディオデバイス」を開き「プロパティ」を選択。「プロパティ」の「表示するコントロール」のすべてにチェックを入れ「OK」をクリックし、「ボリュームコントロール」と「WAVE」の下にある「全ミュート」「ミュート」のチェックを外す。

さて、まずは肝心のソフトのインストールと音量の設定だ。技術担当者から電話がかかってきて、指定されたサイトからクラスルームに入るためのWebEndpointというテレビ会議用のソフトをダウンロードする。引き続き自分側のマイク音量と相手側のボリュームの各設定をする。それから実際にクラスにつないで、聞こえる音に問題がないかを確認して、ようやく準備が完了。結構細かい設定が必要のため忘れてしまいそうだと思っていたら、後日設定のマニュアルがメールで送られてきた。

特に気をつけたいのはCDプレイヤー付きのパソコンでのCDプレイヤーの音量設定。受講の際にCDプレイヤーを使うわけではないが、左画面のようにCDプレイヤーの音量設定で「ミュート」にチェックを入れなければならない。普段、音楽を聴いていてミュートのチェックをはずしている場合は、受講の際にチェックを付け忘れないようにしなければならない。

ようやく形は整った。次に授業を受けるために電話によるレベルチェックで初級、中級、上級の診断を受ける。指定した時間に電話がかかってきて、英語で質疑応答。趣味や休日の過ごし方について会話を進める。めったに話さないためなかなか言葉が出てこない。後日メールで中級クラスと結果報告が届いた。

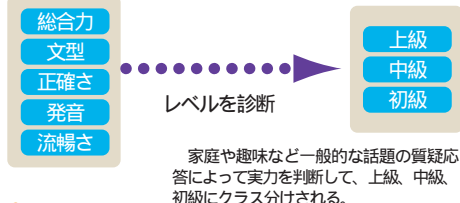
次はクラスの予約だ。時間割をウェブサイトでチェックする。初級、中級、上級の自分のレベルのクラスから週1回、希望日時を第二希望まで選択するのだ。もれた場合はほかの日を選んで再度申し込みができる。メールと時間割を照らし合わせるのが結構面倒だった。

お知らせメールと時間割を照らし合わせるのが結構面倒。ウェブ上で一括予約できるといいのに。

## 予約編 1

### 電話によるレベルチェック

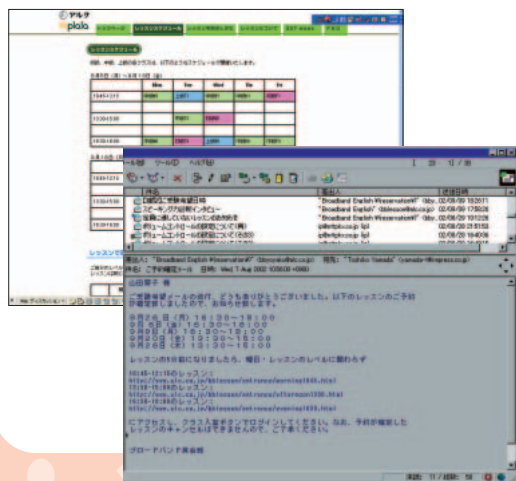
#### 電話によるスピーキングテスト



モニター申し込みの受け付け後、アルクから事前に指定された時間に電話がかかり、英語力を判定して受講クラスが決める。SSTというスピーキングテストに基づいて初級、中級、上級各3段階、計9段階で診断され、メールで結果が知らされる。週末に何をしたら、趣味は何かなどが質問される。英文に間違いがあるか、どの文型をどの程度使えるか、文章の長さ、発音、内容、言語機能、流暢さなどから総合的にスピーキング力を判定。

## 予約編 2

### レッスンの予約



レッスン予約はウェブに書かれた時間割を見て、希望日時をメールで申し込む。全8回で、週1回各90分のコース。毎週学ぶテーマは「理由を説明する」「比較する」など決まっている。今回は中級クラスの中から第二希望までを選んでメールで送信。4名の定員になった授業の連絡や、受講OKのお知らせが随時メールで届く。

# レッスン編

## レッスン開始!トラブルには即対応

### 入室メンバーリスト



WebEndpointを立ち上げてクラス入室ページの入室ボタンをクリックしてクラスルームに入る。画面の左にクラスルームに入っている人の名前が表示され、それをクリックするとそのメンバーの画像が立ち上がり、授業を開始する。また、「グループワーク」ボタンをクリックして他のクラスに移動し、一対一のディスカッションを行うことができる。画面下のクラスルーム画面は、先生と一対一でSSTを行っているところ。一連の漫画のストーリーを説明している。なお、画面下の掲示板には連絡事項や音が聞こえない際の連絡などがチャットできるようになっている。

実際に授業を受けてみて、意外に多かったのが画面や音声のトラブル。こちらの音に雑音が入るとテクニカルサポートから「山田さん、クラスからいったんログアウトして下さーい」と退出を命じられる。すぐに技術担当者からの電話がかかり、一から前ページの設定を確認する。ほかの人の画面が見えなくなったり、エコーが入ってしまったりということもあった。結局パソコン外付けの出力音量のボリューム調整が小さくなっていただけだったということも。ほかの原因としては、利用者のハードディスクの容量が不足していたり、サーバーの負荷が大きくなったために不安定になったなどが考えられるという。

それにしても、声だけではなく画面上で先生やほかの受講者の表情を見られるのは楽しいものだ。話しも弾む。沖縄や仙台などの方もいて話も興味深かった。もっと交流できるとよかったのに。不特定多数の人が参加しているのでセキュリティ面ですぐには難しいかもしれないが、掲示板やメールで情報交換できるといいかもしれない。実はAEONの英会話教室に1年間通ったことがあるのだが、それに比べても授業内容については遜色ないし、かえってインターネットならではの面白い面もあった。直接会うよりも画面が小さいのが気にならなければ、手軽なインターネット英会話をやってみるのもいいのではないだろうか。

# 番外編

## このほかにもインターネット英会話教室は続々登場!

### おもなインターネット英会話教室

サービス名	おもな内容	費用	環境	会社名	連絡先
ECC	ライブレッスン	入会金20,000円、50分2,000円～	機材費18,800円	ECC	<a href="http://www.eccwebleson.com">www.eccwebleson.com</a>
お茶の間留学	インターネット回線を利用したテレビ電話によるライブレッスン	20分3,600円～。通常クラス受講生の割引あり。	機材費89,000円	NOVA	<a href="http://www.nova.ne.jp">www.nova.ne.jp</a>
Aeon Net Campus	ライブレッスン、ライティングレッスン	20分2,600円～。通常クラス受講生の割引あり。	マイク付きヘッドフォン(3,000円)、教材別途購入	イーオン・ネット・コミュニケーションズ	<a href="http://www.aeonnetcampus.com">www.aeonnetcampus.com</a>
e-EnglishGym	一般コース(無料)あり、ビジネス英会話	6か月30,000円(会費)	マイク、ヘッドフォン貸し出し、マイクロソフト提供のソフト、Netmeeting3.01を使用	ソニーマーケティング、協力:NHKエデュケーショナル	<a href="http://www.e-englishgym.com">www.e-englishgym.com</a>
english town	1対1の英会話コース、ヒアリングのみなど40コース、世界中から英語を学びたい人が受講する。	5,900円(6か月契約)～	マイク、ヘッドフォンは自分で用意する。サウンドプラスター1枚(以上)互換サウンドカードが必要	イングリッシュタウン	<a href="http://englishtown.msn.co.jp/partners/msjp/default.asp">englishtown.msn.co.jp/partners/msjp/default.asp</a>
GlobalEnglish	さまざまなシーンに応じたビジネス英語をヒアリング	1年45,000円	マイク、ヘッドフォン貸し出し	グローバルイングリッシュジャパン	<a href="http://www.globalenglish.com">www.globalenglish.com</a>
グローバルコミュニケーションズ	企業向けeラーニングが充実、ビジネス英会話、メールレッスン、電話表現のレッスン、マナー、カルチャーなど	入会金20,000円。6か月100レッスン150,000円～。無料体験あり、オンライン教室初回の給付金制度あり。	マイク、ヘッドホン貸し出し	グローバルコミュニケーションズ	<a href="http://www.globalcommunication-online-english-school.co.jp">www.globalcommunication-online-english-school.co.jp</a>
english4	ビジネス英会話、メールレッスン、電話表現のレッスン、マナー、カルチャーなど	1年37,000円	カメラ、マイク貸し出し	ユナイテッド・コミュニケーションズグループ	<a href="http://www.english4s.com">www.english4s.com</a>
EDR.jp	1対1の英会話コース、TOEICの自習学習プログラムあり。	ポイント1ポイント20分31,500円～。ユーザー登録すると2ポイントの無料体験受講可能	マイク付きヘッドフォンを無料で提供	フォーハーフ	<a href="http://edr.jp">edr.jp</a>

今回のモニターに聞いたアンケートによれば、授業内容そのものが充実していたためか、過半数の人が「ほぼ満足」で「効果があった」と回答した。今回はスピーキングが中心だったが、このほかにもインターネット英会話には、ビジネス英語中心、ヒアリング中心、文法中心などさまざまなものがある。受講の形態も、クラス形式のものあれば、マンツーマンのもの、リアルタイムではなくてストリーミングでヒアリング、リーディング中心のものもある。

プロフェッショナルを目指すのか、日常会話程度ができればいいのか、TOEICなどの資格を目指すのかなど、自分の目的に合ったクラスを吟味しよう。

## [インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレス R&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接的および間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社**インプレスR&D**

All-in-One INTERNET magazine 編集部

[im-info@impress.co.jp](mailto:im-info@impress.co.jp)